
リハビリテーション天草病院だより

2020年7月

No. 95



発行 埼玉県越谷市平方343-1 / (医) 敬愛会広報委員会

当院における医科歯科連携

リハビリテーション天草病院 歯科部長 天草 大輔

近年、口腔と全身の関わりが、様々な研究結果から明らかになってきました。1人の患者を、医科と歯科が互いに並行して治療を実施、情報共有することで、より質の高い医療を提供することができます。この連携を医科歯科連携といいます。

そこで、当院で現在実施している、または今後実施予定の医科歯科連携7項目について、以下に説明してまいります。

1. 全リハビリ対象患者に入院時所見「口腔機能の評価」を実施

- ・ 歯科医師及び歯科衛生士が実施する。
- ・ 口腔衛生状態、義歯の適合性、う蝕・動揺歯・舌病変・口腔乾燥の有無などを所見用紙に記載する。所見用紙は、全職員が閲覧できるようにして、歯科医師・歯科衛生士の視点による情報を共有する。

2. 「口腔機能の評価」の結果に基づき、治療を希望する患者に、リハビリの効果に大きく寄与する歯科治療を実施

3. 病棟専属歯科衛生士の派遣

- ・ 入院患者の口腔ケアを実施する。
- ・ 口腔機能の再評価を実施する。
- ・ 義歯着脱困難患者の着脱指導を実施する。

4. 嚥下内視鏡検査(V E)・嚥下造影検査(V F)の歯科部参加

- ・ V E、V F 専属歯科医師による検査を実施。検査結果に基づき、食形態の変更、リハビリ訓練内容等を看護師や言語聴覚療法士(S T)に指示する。
- ・ 歯科治療により、咀嚼機能が改善した患

者の再検査を実施する。

※V E、V Fとは：脳卒中患者の多くに認める摂食嚥下障害の現状確認や訓練計画立案のための精密検査のこと。

5. 咀嚼に着目した他部署への情報提供

- ・ 咀嚼に影響を及ぼす歯科治療（義歯を支えている歯牙の処置や、新義歯の装着など）を実施した際は、看護部・リハビリ部にその旨の情報提供用紙を配布する。
- ・ 患者の咀嚼状態を看護部等が把握できるため、「いま、現在の咀嚼状態」に合わせた食形態やリハビリ訓練が実施できる。

※咀嚼とは：食物を噛み砕き、飲み込みやすい塊（食塊形成）にする準備期のこと。

6. 訪問歯科診療でのV E実施

- ・ 回復期を終え、生活期にある患者の摂食嚥下機能は、決して常に一定ではない。そこで退院後は現状を確認するために、訪問歯科診療でV E検査を実施する。
- ・ 訪問看護・訪問リハビリ利用患者にV E検査を実施する。検査結果に基づく食形態・リハビリ訓練内容を担当看護師・担当S Tに提供する。

7. N S T(栄養サポートチーム)への参加

- ・ 栄養管理の最終目標は経口摂食である。
- ・ 咀嚼機能回復の専門性を活かし、多職種との連携を図る。

以上7項目が、当院における医科歯科連携です。今後実施予定の項目も早期に開始し、リハビリの治療効果を更に高めていくために、質の高い歯科医療の提供を目指します。

病棟専任管理栄養士って何するの？

栄養部 管理栄養士 宮崎 正範

当院では、現在3名の管理栄養士が在籍し、病棟専任管理栄養士として従事しています。2020年度の診療報酬改定より回復期リハビリテーション病棟入院料1は、回復期で唯一、管理栄養士の専任配置が義務となりました。

病棟専任管理栄養士とは？

病院において管理栄養士がどのような業務を行っているのか、主に次の二つに大別する事が出来ます。

《給食業務》

献立作成、食材発注、食札作成、食数管理、帳票類作成や厨房全体の作業管理、衛生管理、安全管理など『食事の提供』を中心とした様々な業務を行います。

《栄養業務》

栄養ケア・マネジメント、栄養管理計画書の作成、栄養食事指導、栄養・褥瘡・摂食嚥下などの委員会やラウンドなど、入院患者さんの栄養状態の管理を中心に各種業務を行います。

病棟専任管理栄養士とは、上記業務のうち、担当病棟の栄養業務をする事が中心となります。今年度より全体の栄養業務を各病棟に分担する事となり、病棟や病室に訪問する時間が増え、より重点的な栄養管理が出来る様になりました。

栄養管理について

入院中においては様々な理由で必要な栄養量の摂取が難しくなり、栄養障害に陥る事が

あります。栄養摂取量が不足すると体重・体力・免疫力が低下し、更なる活動量・食欲・栄養摂取量の低下に繋がります。その結果、骨折、褥瘡、感染症、寝たきり、リハビリ効率の低下等の悪循環に陥る可能性があります。嗜好や食事量・嚥下食の食形態などを考慮し、エネルギー・タンパク質など栄養摂取量が増加する事で体調を整え、このような悪循環を逆に改善の好循環に変え、生活の質やリハビリテーションの質の向上に繋げる事が出来ます。

現在、当院において管理栄養士は入院時からの栄養状態の評価・計画に力を入れて取り組んでいます。リハビリテーションの実施に伴い医師・看護師・リハビリスタッフ・その他医療従事者と協同してリハビリテーション総合実施計画書を作成し、定期的に栄養状態の評価や計画の見直しを行い、必要に応じて計画の変更や食事指導を実施し、栄養状態の改善と栄養障害の発生の予防をしています。

さいごに

入院中のリハビリテーションを終了し、退院する前に入院中の栄養状態を踏まえた食事指導を行う事で、退院後の食生活に目標と方向性を持って臨む事が出来ます。

退院後の食事について、どのような食事をして良いのか分からないといった意見を患者さんやご家族より頂く事があります。退院に際して食事や栄養についての不安や戸惑いがあれば管理栄養士、院内スタッフにお声かけください。

「リハビリ生活1ヶ月を終えて」

春日部市 樽見 浩

脳内出血で倒れてから13日目の令和2年3月30日に左半身麻痺と脳のリハビリをするため、このリハビリテーション天草病院に転院して来ましたが、最初に驚いたのは、中々ベッドで横にさせてもらえず車椅子に座っている時間が長いことです。前の病院では、ほとんど寝たきりでベッドでの生活だった私は車椅子に座ると15分くらいで体が痛くなり「ベッドに横になりたい」と言う「車椅子に座るのもリハビリだからね」と横にさせてもらえず、これが悪魔の言葉に聞こえました。今では、3・4時間以上座っていても平気なくらい車椅子に強くなりました。そして、車椅子に座ることはリハビリの第一歩なんだと思えその大切さを身をもって感じています。

また、転院した時は左の腕・足は全く動かず、右手で手すりを使ってどうにか立つことが出来るくらいで、立っても安定性がなくて一人でトイレは出来ずに二人がかりで介助をしてもらいやっと便座に座るという感じで、座ってもお尻を動かすことが出来ず自分のお尻を自分で拭くことが出来ないことに気付きました。何度もチャレンジしましたがどうしてもお尻を拭くことが出来ませんでした。そんな私でも今では、一人でトイレをしています。手すりを離すことが出来なかったのが嘘みたいに両足でしっかりと立ち、ズボン、パンツを下ろし便座に座って最後にはしっかりお尻を拭いて全て一人で、自分のタイミングでトイレをするようになると便秘も治り大嫌いな下剤「アローゼン」も必要なくなり、毎

日快便で快調です。

初めて、お風呂に入った時は体を器具に固定され吊り上げられてそのまま湯船に入るスタイルでしたが、それでも久しぶりに入ったお風呂は気持ち良かったです。今は、介助してもらい湯船に入ることができ身体も自分で洗えるところは洗いや替えも一人で出来るようになりました。以上のこと等が作業療法の中で、落ち着いた雰囲気でも何でも話やすく、頼りになる担当者とのリハビリの成果です。当然ながら一歩も歩くことが出来なかった私ですが、今は軽くサポートしてもらい一本足の杖を使って40mくらい歩けるようになり、階段昇降の練習等もしています。手すりを使って一人で歩く練習をしても良いと許可も出ました。これらが理学療法士との成果と言いたいところですが、リハビリ担当者と1ヶ月間一生懸命リハビリをしていたら、いつの間にか歩けるようになっていたというのが正直な感想でリハビリ担当者は本当にすごいと心から尊敬しています。

そして、言語聴覚療法の成果ですが、この天草だよりの原稿を依頼されたことに尽きると思います。1ヶ月前の私にこの原稿を依頼する人は間違いなく一人もいないでしょう。何ていったって“一日中ボーっと”してましたし、足の装具を勝手に外そうとして車椅子から落ちたりと問題ばかりでしたから。そんな私の「やる気スイッチ」を押してくれたのが言語聴覚療法士でした。STのリハビリが大好きになり課題をこなして行くうちに、頭の中のモヤモヤが取れてスッキリし「集中力」「判断力」「注意力」などが戻ってきた感じになりましたが、ある時、担当者が代わってしまいました。よりによって一見、強面の担当者です。一瞬で私の「やる気スイッチ」は消えました。その担当者は笑わなそうによく笑い、話も面白く、今では冗談等を言い合いな

がら楽しくリハビリを頑張っています。「やる気スイッチ」は未だに見つかりませんが、いつの間にか「やれよ！スイッチ」を作られて、押されまくっています。

最後にリハビリ生活1ヶ月を終えて、一番感じたことは、しっかりリハビリをすれば出来なかったことが出来るようになるという事です。これは、確実に体験することが出来ました。また、担当医を始めとするリハビリ担当者、色々と気を使って頂き本当にありがとうございます。感謝しています。看護師、介護士の皆さんには、お世話になりっぱなしで、すみませんが本当にありがとうございます。心より感謝しています。今後もお手柔らかにお願い致します。

今、私のリハビリ生活も2ヶ月目に突入しましたが、今度の目標は「内田裕也のように杖の似合う男」になることです。間違いなくそれぞれの担当者からは「いいですねー。」「何言っているんですか？」「目標が違うでしょう！」と言われるでしょうが、とにかく退院までリハビリを頑張ります。

(投稿日 令和2年5月11日)

「天草病院に入院して」

越谷市 吉村 亨

私は、昨年11月24日深夜に脳出血を発症し、越谷市立病院に約1ヶ月入院しました。12月19日にリハビリテーション天草病院に入院しリハビリがスタートしました。左腕と足が麻痺で動かなくなりコンビニエンスストアの運営をしていた仕事も全く行けなくなり生活も全て一変しました。

私自身、入院当初の記憶があまりなく頭はボーっとしており何も考えていなかったと思います。自分の身体や病気の現実を理解し、とにかく歩けるようになり日常生活に戻りや

がては社会復帰へと頑張ろうと思えたのは、もう年末位になっていたと思います。それを支えてくれたのはA棟Bチームの看護師の皆さん。リハビリのスタッフを始め私の入院に関わった方々に感謝しかありません。特に看護師の皆さんの優しさ、患者への思いやり、明るい接し方には頭が下がります。

入院した頃、酷い便秘になったことがありました。快便快眠の人間なので3日目位から気持ち悪く夜も眠れない状態になりました。その状況を看護師さんに話すと、心から心配してくれてリハビリスタッフもお腹のマッサージを一生懸命してくれました。何日か経ち、やっとまともな通事があった時、自分の事に喜んでくれた看護師さんを忘れられません。チームの皆さんは全員こういった感じで私の事を心配してくれます。たくさんの方がいるのにそれぞれの状況を理解しています。中には我が儘な患者もいますが、嫌な顔もせず、笑顔で接しています。皆さん本当にありがとうございます。もっと元気になってお礼に来たいと思います。看護師の皆さん、リハビリの皆さんいつもありがとうございます。必ずもっと良くなって恩返ししたいと思います。「心の声」はあまり聞かないようにします。(投稿日 令和2年3月13日)

感謝の声 (投書箱より)

先生方をはじめ看護師、介護士、リハビリの先生方に良くして頂き大変お世話になりました。入院させて頂いた時には歩くことさえ出来ませんでした。リハビリを重ねていく間に歩けるようになり今では自分の足で歩くことの嬉しさに感動しております。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

(C病棟 入院患者様より)

新任のご挨拶

医師 城 崇之 (じょう たかゆき)



この度2020年4月からリハビリテーション天草病院に常勤医として赴任いたしました城と申します。

2011年に順天堂大学脳神経内科に入局し、これ

まで順天堂大学の関連病院で勤務しながら、パーキンソン病を中心として脊髄小脳変性症や脳血管障害、認知症、そのほか様々な神経疾患を勉強させていただきました。また、この頃には当リハビリテーション天草病院にも病棟の方で非常勤として時折お世話になっていました。

その後、大学院ではパーキンソン病の治療として行われる脳深部刺激療法を行うチームの一員として研究を行いました。

そして、大学院卒業後には昨年度まで順天堂静岡病院の脳神経内科医として診療に携わってまいりましたが、この度ここリハビリテーション天草病院に赴任いたしました。

これまでパーキンソン病を中心とした神経疾患の診療に携わり、脳神経内科の疾患の多くは診断や薬剤調整・再発予防などの治療も重要でしたが、神経難病の中には治療法がなく対症療法が中心となる疾患も多々あるため病気の進行や症状によって変化した日常生活を改善また維持させるためにはリハビリなど薬物療法以外での医療もとても重要であることがこれまでの診療で実感していました。

これまでも看護師やリハビリスタッフ、管理栄養士、ソーシャルワーカーなど様々なス

タッフの方々、また日常を支えるご家族と協力して患者さんによりよい医療を提供できるようにチーム医療で診療にあたってまいりましたが、今後も皆様からのご協力を仰ぎながらよりよい医療を提供できればと考えています。

また、脳梗塞や脳出血などの脳血管障害の患者さんは様々な合併症を有していることもあり急性期は過ぎてもまだ不安定な病態の方も多く、糖尿病や高血圧、脂質異常症などの動脈硬化のリスク管理も重要でもあり、これまでの脳神経内科での経験を生かし、そういった方々の力になれるように力を尽くしていきたいと思います。

これまで非常勤としての勤務はありますが、急性期治療が中心であり、回復期リハビリテーション病院での勤務は初めてになりますので、慣れないことも多々あるかと思いますが、治療、リハビリテーションに対して少しでも力になれるように努力してまいります。

若輩者ではありますが、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

《主な履歴》

順天堂大学医学部医学科卒業

順天堂大学脳神経内科入局

順天堂大学医学部大学院卒業

順天堂大学医学部附属静岡病院勤務

《資格》

医学博士

日本神経学会神経内科専門医

日本内科学会認定内科医

越谷市地域包括支援センター桜井の活動報告

越谷市地域包括支援センター桜井 主任介護支援専門員 岡田 秋子

「地域包括支援センター」とは、各自治体が設置する高齢者の総合相談窓口です。

私たち地域包括支援センター桜井は、越谷市北部の桜井地区を担当し、高齢者に関わる様々な相談に対応できるよう、3つの専門職（保健師2名、社会福祉士3名、主任介護支援専門員1名）と介護予防ケアプラン担当の介護支援専門員、事務員も含め、8名が従事しています。高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていくことができるよう、高齢者の方やそのご家族、ご近所の方々、かかりつけの病院やクリニックなど、様々な立場の方からの相談をお受けしています。

【総合相談・権利擁護】

令和元年度の相談件数は5,363件（訪問1,640件・来所352件・電話3,370件・文書1件）で、一番多い相談は介護サービスに関することです。次いで要介護認定、健康・医療に関すること、その他に高齢者虐待に関する相談58件、成年後見制度や不当契約・消費者被害に関する相談が34件となっています。当事業所だけで解決できる内容ばかりではなく、必要に応じ関係機関や他の専門職の方々と連携しながら、当事者の安全確保や権利擁護を念頭に、速やかな支援を進めています。

【ネットワークづくり】

また、当事業所では、高齢者等を支援する先に対して地域包括支援センターの役割をより知っていただくための活動も行っています。訪問先は、高齢者の方と接する機会のある医療機関や介護保険事業所、地域の方々が行き

来するスーパーやドラッグストア、金融機関等の民間企業、高齢者の方が集うサロンなど様々です。地域を限なく回り、高齢者の方の困っている声を聴き、生活上の相談や助言を行っている民生・児童委員の方々や自治会とも連携して、早期の支援に繋がるよう努めています。令和元年度は、個別事例への支援やネットワーク構築のための関係先との連携など、対応件数は2,607件となります。

【介護予防ケアマネジメント】

介護保険で「要支援1・2」と認定された方、または基本チェックリストにより予防対象と判定された方の介護予防ケアプランを作成しています。年々作成件数も増え、令和元年度は、延べ3,650件（連携先の居宅介護支援事業所への委託分含む）となっています。

【さいごに】

平成18年の介護保険法改正で始まった地域包括支援センターが、各自治体に設置されてから10年以上経ちました。相談に来られた方々が「広報を見て知っていた」「近所の人に教えてもらった」などと、話されているのをお聞きすると、地域包括支援センターの存在が社会の中に浸透してきていることを感じ、とても嬉しく思います。

今後も地域に根差した活動を行っていきたいと考えておりますので、どうぞお気軽にご相談ください。

【お問い合わせ先】

TEL：048（970）2015

受付時間：月～土の8時30分～17時30分

編 集 手 帳

＊中国武漢で発生した新型コロナウイルスは今なお世界中で人々を恐怖に巻き込んでいます。特に、発展途上国や後進国で医療設備の整わない救護施設に搬送されて来る感染者の悲惨な姿や感染するのではないかと怯える様子は、まさに地獄絵を見ているようです。加えて、社会・経済活動が停滞し世界恐慌に陥る可能性にも恐ろしさを覚えます。世界の終わりの始まりと言っても的を外れではないと思いますがいかがでしょうか。一日も早くワクチンが開発され治療薬が出現することを願うばかりです。それにしても、中国当局の武漢ウイルス発生の公表が何十日間も隠蔽され世界中の学者が協力し対策に当たる時間的ロスが生じたことは万死に値する犯罪行為かと思えます。だからこそ、武漢ウイルス研究所からの流失説が世界を駆け巡るのです。以前、中国高速鉄道で脱線事故があり多数の死者を出

した時の中国当局の対応を思い出しました。あの時は事故直後に脱線車両を地中に埋めてしまいました。事故原因の究明など、どうでも良かったからでしょうか。

＊現在、我が国におけるコロナ禍は小康状態にあります。いつなんどき第2波、3波が襲って来るか分かりません。国・県・市・私達が一丸となって備えをすることが大事なのは言うまでもありません。経済活動が大失速し不景気が長引くことは確実であると言われております。これをどう乗り切るのか為政者の力量が問われています。ただ有り難いことに我々日本人には「強い絆」がありますので私は、何とか持ちこたえることができる、そして経済復興を成し遂げられると確信しております。

＊感染予防と経済活性化の両立、歴史上多くの「災害」に悩まされ、いずれも「強い絆」で復興して来た日本。頑張りましょう。

(理事長天草大陸)

当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構」と「ISO」の認証を取得しています。

なお、老人保健施設でも「ISO」の認定を受けています。



表紙のことば

この作品はA病棟入院患者様が作業療法の時間を利用し折り紙で作成したものです。新型コロナウイルス感染により思うように外出ができない中、少しでも季節を感じてもらえたらと思いホールに飾らせて頂いています。感染対策が続きますが今後も患者様に有意義な関わりを持っていきたいと思えます。(A病棟スタッフより)